

第1回松江市ごみ処理手数料審議会議事録要約

日時：平成22年7月8日（木）

14：00～15：40

場所：消防本部5F大会議室

司 会

松江市の公共料金の改定につきましては、「松江市公共料金に関する審議会条例」によりまして、あらかじめ審議会の意見を聞くことになっておりますので、8名の皆様に委員をお願いし、ご審議いただきます。

（委嘱状交付式）

（会長選任）

磯部会長

先ほど皆様からご推薦いただきました磯部でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。消費税が10%上がっていくというような話と言われておりますが。そんな中で市民に最も影響のあるごみ処理手数料の問題がでております。市民の一つの役割として効率的に効果的にごみを処理できるかという中で、発生した問題だろうということで、市民の代表として真剣に取り組んでいかなければならないと考えるので審議委員さんのご協力を得ながら、廃棄物の減量化そして消費者の立場からお役に立てればと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

（副会長選出）

市 長

（諮問書手交）

それでは一言お願ひのご挨拶をさせていただきたいと思ひます。皆様方に公共料金、ごみ処理手数料の審議会の委員を快くお引き受け賜りました。そしてまた今日はお忙しい中ご出席賜りまして誠にありがとうございます。

来年の4月から本格的に施設が稼動するわけでございます。今回の新しいごみ処理施設は、これまでと違ひまして原則いろんなものを燃やしていくということに変わっていくわけでございます。

これまでのご承知のとおり、もやせるごみ、もやせないごみ、資源ごみと大きく言いますと3分別してはいたしましたが、このうちもやせないごみについては最終処分場で、埋め立て処分という形で処分をしていたわけですが、しかし、こうした埋め立て処分の仕方というのは、後世までずっと残ってしまいます。地球環境からいいますとこれはきわめてよろしくないやり方だったわけですが、ただそうはいいながら技術的にはなかなかこうしたプ

ラスチック等々燃やすことになりますと、いろいろな有害ガスが出るというふうなことがあって、これをやむなく埋め立てという形で処分をしていたわけでありま。その後の技術革新等ありまして、これを有害なダイオキシン等が出ない形で処理をする、燃やすことができるという施設を建設しているところだ。従いまして、これまでのもやせるごみ、もやせないごみを一つにまとめまして、一つのごみ袋で出していただくよう、考えていま。

一つの袋にするからといって、ごみの減量化とリサイクルすることを放棄してしまうということではございませ。やはり地球環境等々を考えますと、まずごみの減量ということをやっていかなければならないと思っているところだ。したがって、そのために一つは資源ごみというものと今回のごみ袋と言うものを分けていくということが大前提だと考えているわけだ。したがって、今回の分別は資源ごみと新ごみ処理施設で処理をするごみ、この二つに大きく分けたいと思っている。

ただ、金属につきましては、新ごみ処理施設で処理はできるわけだ、リサイクルしていきたいと思っている。金属は、特別にまた袋を考えさせていただきたいと思っるところだ。そのような形で大きく資源ごみと燃やせるごみ、そして金属ごみと分けるわけだ。さうは言ってもやはり新しいごみ処理施設の維持管理にはたかさんの経費がかかるわけだ。

一方ごみ袋の価格だ、平成12年から実質的には袋代を据え置いているわけだ。さういう中でほかの都市の状況、近隣の状況を見ますと主に合併を契機に改定を行っているところが見られる。例えばもやせるごみ袋につきましては、1枚40円から60円の料金に設定をされている自治体が多いわけだ、消費者にとって安ければ安いほうがいいのだけれど、余り近隣の都市との間で格差が出ますと不法投棄という問題が出てきま。特に近隣の高いところでいけば、松江市の安いごみ袋を購入して、松江市内のごみ集積所に捨てている人がいるというふうなことが、確証があるわけではないが、さういうところが見られるようだ、このふうなことは好ましいことではありませ。したがって、近隣とのバランスということも一方で考えなければいけな、さうように思っているわけだ。今磯部会長さんからお話にもございませように消費税の問題もございませ。一方でデフレだというふうなことで、リストラなども発生しているという状況の中でさうした公共料金の値上げをお願いするということは、私どもにとりましても大変辛いことではございませが、今後末永く施設の維持管理をしていくというためにはやむを得ないことではないかと思っるところだ。ぜひこのあたりのことも皆様方この審議会でご議論を賜りまして、ぜひ適切な内容の答申をいただければと思っしております。

なお、この中で資源袋の価格につきましては、据え置きをしていきたいというふうに思っっております。これは先ほど申し上げましたように、何でも燃やせることになりますとさうした資源ごみの分別が曖昧になってくる、徹底を欠いてしまう可能性があるのでできるだけさういったものは、安いリサイクル袋に入れていただい分別をしていただく、さういうことをお願いしたいと思っっております。

それから、今、高齢者世帯、単身世帯が増えていますけれども、こういった世帯におきましては、比較的小さな袋が好まれるわけでございます。したがって、今回10リットルの袋を新たに設定したいと、考えているところです。通常の45リットルにつきましては、値上げということになりますけれども、新たに10リットルの袋を作って、少し取捨選択ができるようにそういう中で負担の軽減が図れるように、考えているわけでございます。

ぜひ皆様方の十分なお審議を賜りますようよろしくおねがいたしまして、ご挨拶いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

(公開事項の確認)

事務局

諮問書の内容について、諮問書と資料1に沿って説明。

今までありました「もやせるごみ」と、「もやせないごみ」の中から汚れたプラスチック、ビニール、陶器類や革製品など金属を除いたものが一緒になる新たな「もえるごみ」ができます。金属ごみは、新しく作り、今まで粗大ごみで出していた金属のうち、袋に入るものも入れて出すことができます。

現在は、もえるごみ、もえないごみ、資源ごみ、粗大ごみの4種類15分別ですが、来年の4月からは、3種類15分別になります。

もやせるごみは、20ℓ12円、30ℓ15円、45ℓ18円から20円、30円、40円とし、新たに10ℓの袋を作り10円といたします。

資源ごみは、価格を据え置き。20ℓを新設します。

金属ごみも資源なので、資源ごみと同じ価格にします。

日高会員

この価格設定の40円は妥当だと思います。40円、50円が他市町村も多い。資源ごみをきちっと分けて資源をたくさん出すような新しい制度を確立してほしい。これくらいなら家庭の負担とならないと思います。

事務局

資料2から資料6に沿って説明。

資料2の他市の状況ですが、浜田市は、16年に改定しておられまして、そのまま合併で移行し、平成21年に改定をしておられます。出雲市は13年に改定をされて、合併では変わらずに平成20年に改定をしておられます。益田市は合併のときに若干改定しておられますが平成19年に大きな改定をしておられます。大田市は合併の翌年平成18年に改定をしておられ、安来市は平成18年度に有料化にふみきられております。江津市は、平成12年以降変更はございません。それから雲南市も合併後平成20年に、鳥取市、米子市は平成19年度から有料化しておられ、倉吉市は合併の時に変えておられます。それから、境港市は平成16年に有料化にふみきられております。多くの市が合併以降に料金改定を

しておられる中で、松江市は今日まで改定せずに据置をしている状況でございます。

それから、資料3でございますが一番上に松江市の現在のごみ袋の料金を記載しております。このうち資源は、据置くということで不燃は廃止ですが、変わりに金属を作るということで、さきほど若干説明しましたが、据置いた上で200を14円で作ります。もやせるごみ袋につきましては、現在大袋と比較いたしますと松江市は450で18円でございますが、他市を見ますと大袋が40～500中でも450が一番多いわけですけれども30円～60円でございます。松江市以外で次に安いのが江津市と倉吉市の30円です。40、50、60円というような金額でございます。松江市の周辺部だけを見ますと40円～60円という金額になっております。改定後40円にさせていただいた場合、山陰の12市中10番目の金額になるかと思っております。

次に資料の4-1でございますが、家庭や事業所から出される一般廃棄物の量の推移ということでございます。もやせる・もやせないごみは17年から18年にかけて微増となっておりますが、その後18年から21年にかけては毎年2～4%の減少となり、特にもやせないごみについては18年～21年にかけて16%の減となっております。

つぎに、資料4-2をご覧ください。ここでは、それぞれ家庭系事業所系のごみ量の推移を記載しております。事業所ごみの推移でございますが、もやせるごみは平成17年～21年にかけて約23%減少しております。それからもやせないごみにつきましては、平成17年～21年にかけて約29%の減少ということで事業所系は減っております。但し、資源ごみでございますが、こちらは増加しておりますが資源ごみ量が非常に少ない状況であり家庭系とは比較にならない量でございます。ほとんどない状態です。それから家庭ごみ量の推移でございますが、もやせるごみ、もやせないごみともにほぼ横ばいということでございますが、資源ごみにつきましては平成17年～21年にかけて約12%の減少となっております。この大きな原因といたしましては資源ごみの内重さで60%をしめております古紙類雑誌等の紙類が平成17年～21年にかけて16%の減少ということで、ここは非常に大きな減少になってございまして、これが資源ごみ全体の減少につながっております。下の図では、一人当たりのごみ量の推移ということで、もやせるごみにつきましては微増の状況です。もやせないごみは横ばいでございます。資源ごみについては、微減ということで全体では若干減っておりますがほぼ横ばいでございます。

続きまして資料5でございます。こちらはごみ処理全体の経費に占める可燃処理手数料の割合と、一人当たり世帯当たりの処理経費の比較であります。左の項目の内容ですが、まず、ごみの処理量ということです。家庭系、事業系のそれぞれ可燃、不燃、資源に分けて処理量を載せております。その下には、ごみ処理に係る経費ということで収集経費を可燃、不燃、資源に分けて載せております。同じく処理経費、ごみ袋経費を載せております。その下のところですがごみの処理に係る経費の内、家庭系に係る経費を載せています。上の数値を元に算出したものです。一世帯当たり、一人当たりの経費を載せております。収入額につきましては、袋代としての手数料でございます。一番下に書いておりますのが、負担割合でございますが、先ほど説明した家庭ごみの中の可燃ごみの処理経費を分母といたしまして可燃のごみ処理手数料を分子として出した数字が負担割合となっております。

それから横の方は、松江市の20年度でございまして、これは実績でございまして。それからその右の松江市につきましては、現在のごみ袋代のままで新施設に移行したときの負担割合を載せております。その右の3番目に松江市が料金改定後新ごみ処理施設に移行した場合の負担割合を計上しております。出雲市他の市につきましては平成20年度の実績でございまして。松江市の負担割合は14.5%そのまま新施設に移行した場合13.2%でございまして。料金を値上げさせていただいた場合には25.8%に上がるということでございまして。他の市の状況でございまして出雲市が18.1%でございまして。これにつきましては家庭可燃ごみ1t当たりの経費というのが出ておりますが、新ごみ処理施設で処理した場合松江市で31,911円ですが、出雲市はこれが36,893円ということで、2割弱位高くなっております。分母が2割ほど大きくなりますので、松江市よりは数値が下がるかなと思っております。この数値ですが安来市と境港市は非常に低い数字となっておりますが、これは同じく1t当たりの処理経費が安来市61,900円、境港市は55,200円と非常に高く2倍位になってございまして、ごみ処理手数料の割合が11%台と12%台の非常に低い数字となっておりますが、これは処理経費の関係でそのような数字になると思っております。処理費がだいたい同じぐらいの鳥取市でございまして、1t当り31,989円で処理量も人口的にもそんなに変わらないということで、だいたいにかよった処理でございまして鳥取市が29.9%、米子市さんが27.7%ということで、だいたい適切なおさまっているのではないかと思っております。なお、ごみ処理に係る経費の収集経費、処理経費、ごみ袋経費の所の総計でございまして、平成20年度で16億2千万円位に達してございまして。処理費用が新ごみに移りますと18億4千万円位ということで約2億2千万円位コストが増えていくのではないかと思っております。それから一番下に記載してございまして起債の償還額でございまして、補助金を引きました実質負担が約2億ということで、合せますと新処理施設に移行することによって4億2千万円位増えていくのではないかと思っております。なお家庭ごみの処理手数料ですけれども値上げいたしますと約1億4千万円位負担が増えると推計してございまして。コストが増える部分に対して1/3位、市民の方に負担をいただきたいというような数値が出てございまして。

それでは次に資料6をご覧ください。今回諮問させていただいておりますように料金改定した場合に各家庭にどれくらい負担が増えるのかを検討した数値でございまして。左は現行ということで平成17年から20年の平均値を上げさせていただいております。もやせるごみ袋でございまして、世帯平均年間90枚ということで1,394円をご負担いただいておりますという計算になってございまして、これが新ごみの稼働に伴いごみ袋が変わりますと116枚3,789円となると推計してございまして。もやせないごみ袋は29枚で525円ですがこれが金属に変わりますと年3枚で62円、リサイクル袋につきましては変更がございませんので36枚の637円が変わりません。これを合せますと世帯平均では年間155枚2,556円かかっておったものが、同じく155枚の4,488円となり、一世帯あたり1,932円76%の増ということで推計いたしてございまして。

木村副会長

誤解があるといけないので、改めてお聞きしますが、「ごみ処理手数料一覧」資料2というのがありますが、今の説明では、平成12年から合併を経て現在まで改定をしていないということですが、ごみ処理手数料という意味では無料だったというふうに解釈をすべきではないですか。あえて無料ではなくて平成12年から「はてなマーク」ということで書いてあるが、ごみ処理手数料とごみを何に入れて出すかということと、指定袋を購入することとはまったく性質の違う問題ではないか、だからこれは無料とすべきではないかと思えます。

事務局

条例上は金額を設定しておらず、市販で販売されていた金額として、旧松江市民はごみ袋を15、16円で購入していたものです。

木村副会長が言われたとおり、無料と記入するのが正しいと思います。

木村副会長

それから資料4-2ですが、家庭ごみ量の推移というところで、古紙は16%減ったから黄色いグラフがダウンしているということですね。これと下のもう一つのグラフの資源ごみの量はこれと同じ傾向で棒グラフになっていると解釈していいですか。

事務局

一人当たりも同じ傾向で減ってきています。

門脇委員

袋を作られるわけですが、大体45リットルでどれくらいの原価になるのですか。

青木部長

現在の18円の袋で、6~7円で作成しています。販売店への手数料が2円ですので、10円が、実質市の歳入になります。

門脇委員

手数料としては、10円ということですか。

青木部長

18円の収入になりますが、実質は10円です。

門脇委員

改定は40円ということですが、合併時の協議の中の一覧表を見ると、旧八東郡は高く松江市は低く、一番高いところは130円くらい。合併協議の中で住民に説明するのに安いほうがいいということで松江市の18円になった。町村の住民に対して保育料も安くな

りますよ、ごみ袋も安くなりますよということで説明した経過がありました。合併のときに、もう少し高くなるよう設定しておけばよかったが、そういう経過があるので、妥当な価格だと思うが、住民に納得してもらわないといけないので、十分な説明をしていただきたい。

日高委員

平成18年の環境基本計画策定のときにごみ袋代をもっと上げないといけないという話も出た。もやせるごみ、もやせないごみを減量しないといけないという話が出たが、40円から50円は教育的立場の金額にもなっていると思う。溶鉱炉に入れるものを少なくするのにある程度上げなくてはならないという意見が出ました。

米子は上げて当初のときは減ったが2年目から元に戻った。そういうことではいけないので、持続的に減量しないといけないから、料金そのものは高いけれども、使うのを減らすという意味もかねてこれくらいの値段でいいではないかという意見が出ていた。改めて資源ごみをもっと分別して資源ごみのほうにもっと出していく方法としては良いと思います。

杉谷委員

家庭の負担が増えるが処理経費は、いくら上がるのですか。

事務局

処理経費が、約2.2億円。起債償還額が約2億円の約4.2億の経費がかかります。手数料としてこのうち約3分の1の1.4億円ぐらいをご負担いただきたいと思います。

杉谷委員

新ごみ処理施設の経費を含んでいるのですね。

燃料の値上がりなどどれくらいの期間を考えていらっしゃるのですか。

青木部長

新ごみ処理施設になりますとコークスという燃料の経費に占める割合が多いです。燃料費が年々上がってきています。われわれが伺っている範囲ですが、中国の経済が活発で建設ラッシュなど中国の状況もあって、コークスもだんだんと値上がりしています。あるいは燃料の調達に中国からできなくなって他の国から行わなければならないという状況で、今後あがっていくだろうという予測はしておりますが、これからの経過を見ながら、他市も処理コストや委託費が高くなって、負担をお願いするということになってくれば、また、他市とのバランスなど総合的な考え方もあろうかと思っております。次の改定時期をいつとは申し上げられませんが、いろいろな公共料金などの見直しもありますのでいずれ考えていかなければならないと思っておりますが、少し新ごみ処理施設の様子を見てみたいと思います。新ごみ処理施設は、新日鉄が性能保障というのをかけておりますが、今

後値上りをおおむね10年15年を見据えた平均値をだしています。

大原委員

ごみ袋に消費税は、かかっていますか。

青木部長

非課税です。

合併前の町村価格は非常に高く、1町村を除いて、まだ安いです。

杉谷委員

紙類は16%落ちていますが、今後も下がる想定でしょうか。

青木部長

景気の動向だと思っておりますけれども、新聞発行部数なども下がっておりますし、雑誌なども廃刊になったり、ページ数が減ってきたり、紙の厚さを薄くなったりしていることから自然に減少してきているということです。これがそのままいくのか、景気動向によってだんだん元に戻っていくのかはわかりません。また、紙質なども変わってきていますが、ペットボトルなども薄くなってきておりますし、そういった企業努力が減少と言う形で出てきているということがあると思います。

木村副会長

料金改定の諮問の根本の理由について、優先順位をつけていくつかあげていただきたい。

青木部長

市長があいさつの中で要約してお話しておりましたが、資源リサイクルの料金をもやせるごみの料金と格差をつけることが第一でございまして、先ほどの資料を見ていただきますと、松江市は逆になっております。他市は資源袋が安くて可燃袋が高いです。なぜ松江市でこうなっていたかといいますと実際に市場の店頭価格をそのままにしたのでこういうことになったわけです。資源を安くして、可燃を高くし、処理場へ入るものを減らしていくというふうにするために、松江市はまず改めなければならないということが第一にあります。そうしたときに、もやせるごみを上げるのか、資源袋を下げるのかということですが、コークスや燃やすものを減らす努力をしてきたけれども、約4.2億の経費が増えてくる、ごみの量に応じて処理にかかる経費、維持費はかかるわけです。これは切実な問題であり、応益と言う考え方ですが、3割とか3分の1とかを市民の方に、出される量に応じてご負担をいただきたいということです。理由は大きく二つだということです。

また、松江市の場合合併時から有料化をしております、それまでは副会長さんおっしゃるように無料でございます。改定をしなかったから改定したいということではありません。

原委員

自治会連合会の立場からですが、40円が高いのではないかというふうになります。新しい炉によって、後世に負担を残さないという理念というものがなければやっていけないと思う。じっくりと市民を説得していくことをしていくことが必要だと思います。松江市民として誇りを持っていくという考えに立つことが大切だと思います。

消費税の10%ももっと大きな目でわれわれが生きている間に解決しなければならない。20円から40円を納得はしないが、新ごみ処理施設の経費の一部負担として、松江市民としては誇りを持ってやらなければならない。

日高委員

もやせるごみが減るのか、やってみないとわからないと思いますが。全部もやせると言う声が入ってくるし、分別せんでもいいらしいと言う声が先行して入ってくる。そうじゃなくて、資源になるように資源ごみを厳重に分別していかなければならないのに、うまくいくのかと思う。

新ごみ処理施設は255tの能力で、現行は300tであるから減量をしなければいけない。1つの炉は休憩させるような運用しないと長持ちしないのではないか。本格的に減らさないと、もっと分別しないといけないということをPRしなければいけないのではないか。

小澤委員

ダイオキシン対策で連続して燃やさなければならないのではないかと考えてきた。

日高委員

少なくなれば3炉の内1炉を休ませることができると思う。

青木部長

ごみの量を減らせばコストは落ちてきます。40円にすれば、市民の方がごみを出さないだろうと考えているわけではありませが、缶・びん・ペットボトルなどステーションへ出すごみを袋に入れて出すということをやめて資源に出していくという作用もするのではないかと思います。

不燃物処理場は今年度末で4年分しか持ちませんが、新ごみ処理施設になると40年になります。新しいごみ処理施設を探さなくてもいいということですし、大変に大きな貢献になります。もう一つは先ほどいわれましたダイオキシン対策などで10分の1くらいになり、安全な財産を作ったということになります。

木村副会長

この諮問と直接関係はしないですが、このことによって事業系ごみに影響する部分につ

いてはどういうことがあるのでしょうか。

青木部長

事業系の一般廃棄物は100kg1,500円と家庭から持ち込まれる搬入ごみについては100kg400円いただいております。14年改定しておりますが、そのときにどれくらい負担をしていただくかという負担割合を出しております。このときと今回と比較してみましたところ変わりませんでした。従いまして改定せず据え置くということです。

木村副会長

埋め立て場の延命の価値、延命によるメリットを金に換算できないか。こういう効果も出るという資料がほしい。

青木部長

不燃物処理場が4年で終わっていたら、また新しい施設を建設しなければならない。

最終処分場も残余6年が、15.16年延命できます。安全性などは換算ができませんが、処分場の事業費を換算するという事はできると思います。

日高委員

下水道の残渣である汚泥の搬入はできますか。

青木部長

今のところ、新ごみ処理施設への汚泥搬入は考えていません。

杉谷委員

下水道料金、水道料金などがどれくらいの負担になっているのか、全体の中でごみ袋の負担がどれくらいなのか、皆さんが納得できるような1世帯体当たりの金額がわかる資料があればいいと思います。

青木部長

一般世帯の料金について、どれくらいの負担をしているのか調査します。

大原委員

値上げについて、給料が上がっていれば負担感が少ないかもしれないし、共働きの家庭は負担感が少ないかもしれないが、母子世帯などは生活に追われ、子どもの面倒もちゃんと見れない時間の余裕もない実態の中で、分別し切れない家庭も多いのではないかと思います。理念は理解できるが、負担軽減ができるものであれば考えてほしい。

青木部長

この審議会で話しあっていただければと思います。特殊な事情については、資料等あれば提出しますので、審議会で慎重審議をお願いします。

原委員

不法投棄については強力にやっていただきたい。見つからなければいいということでは善良な市民が迷惑する。啓発の充実など強力に取り組んでいただきたい。

木村副会長

現状の資料として、本来混入してはいけないものが混入している割合を調べた組成分析資料の追加をお願いします。

青木部長

組成分析の調査結果を整理し、提出します。

木村部長

そういうものがインセンティブになると思う。

日高会長

現在、生活保護世帯や低所得者世帯に対して、減免の措置がありますか。

青木部長

減免措置として、手数料条例上は行っていません。販売店でご購入される際に、手帳を見せて購入していただくことは行っておりません。但し、別な方法として、ボランティア袋として使用していただいています。

日高委員

50円、60円の他市も同じですか。

青木部長

そうした制度を行った自治体もあると思いますので、調査し報告いたします。

磯部会長

高齢者の小さい袋も必要だけれども、若い世代の一定期間の一定量のおむつ代は、分別できないので負担感を感じると思う。

小澤委員

精神的に忙しかったり、慌しかったり、余裕がなかったりすると分別がいい加減になることがあり、反省している。家庭の中で分別など話ができるよう、子供たちの教育により

意識が徹底できるよう、学校教育での環境教育の充実を希望します。

吉岡業務課長

小学生は4年生を対象にリサイクルプラザや北工場に団体で見学に来る。「分別をしっかりしなければ」などの感想文が送付されてきますが、1年もたつと忘れてしまいます。中学生が体験学習にこられるので、体験したことを他の生徒にPRしてもらうよう話しています。日本は、資源が乏しいので、分別することは大変ですが、資源を大切にしてください意味からも分別を徹底していただきたい。

日高委員

環境教育を行う学校とそうでない学校があってはならないので、市内の全ての学校で一定レベルの環境学習を行ってほしい。

青木部長

環境基本計画を今年度中に改定する中で、「地球温暖化対策計画」を作成しなければなりませんので、教育委員会と協力し、反映していけるよう作業を進めていきます。

磯部会長 (次回審議会の日程確定)